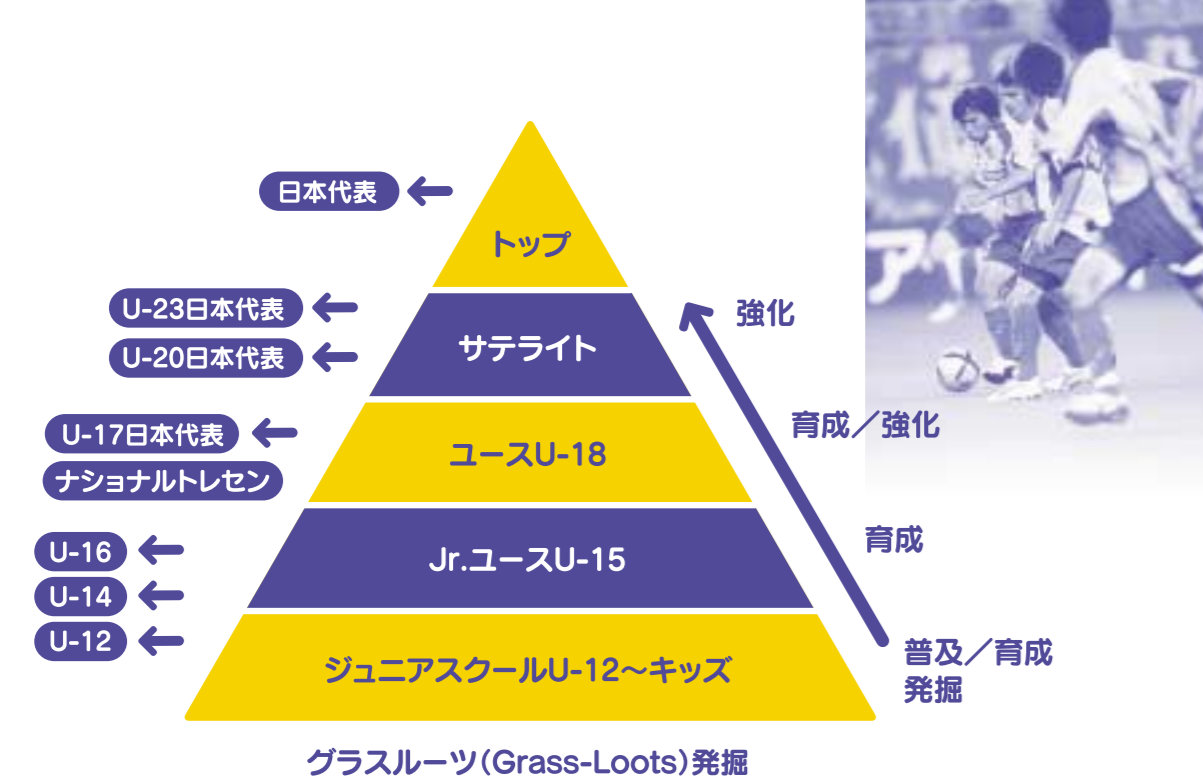


## ベガルタ仙台一貫指導概念



将来ベガルタ仙台のトップチームで活躍できる選手を育成することを目的とし、発掘〜育成〜強化の一貫指導体制をとります。

**普及**

- 幅広い地域、年齢層へのサッカーの普及と優秀な選手の発掘
- 自治体、ファン、サポーターとクラブの関係をより強固にし、地域から愛されるクラブ、チーム作り
- 「文化としてのスポーツの普及活動」

サッカースクール(泉、古川、築館、太白、石巻、仙南、若林)  
 サッカー教室(巡回指導)  
 その他のスポーツ教室

↓

スポーツ人口の拡大、スポーツの普及に貢献します。

**育成**

- タレントを発掘し、クリエイティブで自立した選手を育成

サッカーを通して、豊かな人間性を育てます。

- 友達をつくる/スポーツマンシップを育てる
- 自分で考え、自分で行動を起こすことができる
- 自分の考えを表現できる/人の話を聞ける
- あいさつ/社会的なマナー
- セルフコントロール...生活習慣(食事、睡眠、勉強等)
- フェアプレーの精神/感謝する心

人間性を育てることは、コーチ以上に保護者の責任でもあります。保護者と良い関係を持つことで家庭環境にも気を配ります。お互いの協力により自立した人間を育てます。

## 一貫指導

ベガルタ仙台は、競技者の成長に合わせ、将来を見据えた一貫指導をしています。

**U-6 U-12 (小学生)** **出会いの時期**

種目やスポーツそのものの面白さ、楽しさを与えてくれる指導が必要です。ベガルタ仙台は、一番初めに会った指導者の影響力の大きさを認識しています。

**U-15 (中学生) U-18 (高校生)** **向上の時期**

将来を見据えた指導を展開することが求められます。勝たせるコーチも素晴らしい。しかし、そのスポーツとの出会いや楽しさ、素晴らしさを与えてくれるコーチや将来を見据えた指導がなかったら、世界的な選手は育ちません。

**トップチーム (プロ選手)** **勝負の時期**

勝利に導く指導が求められます。勝利を目指す過程において数々の挑戦や努力が必要となり、それによって工夫や発見、開拓といった創造的な行為も生まれます。喜びや感動、挫折や忍耐など、生きていくために必要な様々な情動を競技スポーツはリアルに与えてくれます。

ベガルタ仙台は、勝利を目指すことへの価値と、勝利にしか価値がないとする考え方(勝利至上主義)の違いを十分に認識しています。そして、そのうえで、勝つことについて真剣に学び、勝つことに執念を燃やします。

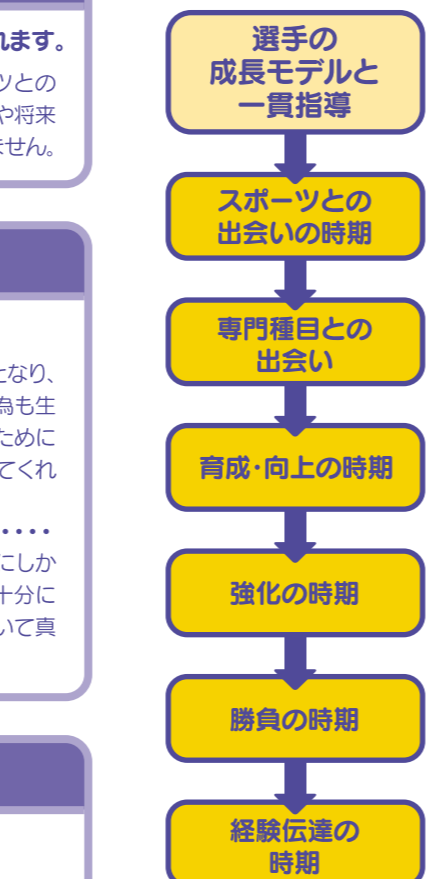
**挑戦し続ける精神 (日本代表そして世界へ)** **更なる挑戦の時期**

現状に満足し、チャレンジ精神を失った時点で選手の成長は停止します。ベガルタ仙台では、選手の将来を見据えた長期一貫指導により「基本となる心」をはじめ、バーンアウトすることなく、どんな困難にも立ち向かい、チャレンジしつづける選手を育て応援します。仙台から日本代表チームへ、そして世界で活躍できる選手を地域の皆様と共に育てています。子供たちの未来にキラキラ輝く夢と希望を与え、そして共に感動を分かち合います。

ベガルタ仙台は、一貫した指導理念によりその時々に応じた最適な指導をしていく仕組みを構築します。

「選手は勝手に育たない。タレントが育つのを待っていたら、永久に待ち続けなければならないかもしれない。」

～UEFA T/D アンディー・ロクスブルグ～



## 自立した選手を目指して

世界のサッカーは常に進化し、変化しつづけています。高度な組織的サッカーでは時間と空間のゆとりが制限され、選手は高度なテクニックと的確な状況判断そしてスピードが要求されます。また、組織の中でいかに自分の特徴やストロングポイントを有機的に調和させるのかといったゲーム感覚、相手や味方、スペースなど刻々と変化する状況に瞬時に対応する感性も必要とされます。なぜならば、いったんゲームが始まってしまうと、すべての問題を選手個々がコミュニケーションをはかり、協力し解決していかなくてはならないからです。

### 世界サッカーのトレンド



**世界と日本の差**

- ベーシックな個人やグループの技術/戦術(判断を伴った技術)の質の差 →様々なディテールの集積
- グラウンド全体、ゲーム全体としてのオーガナイズ/明確なビジョンの有無
- 自立した個性ある選手の有無

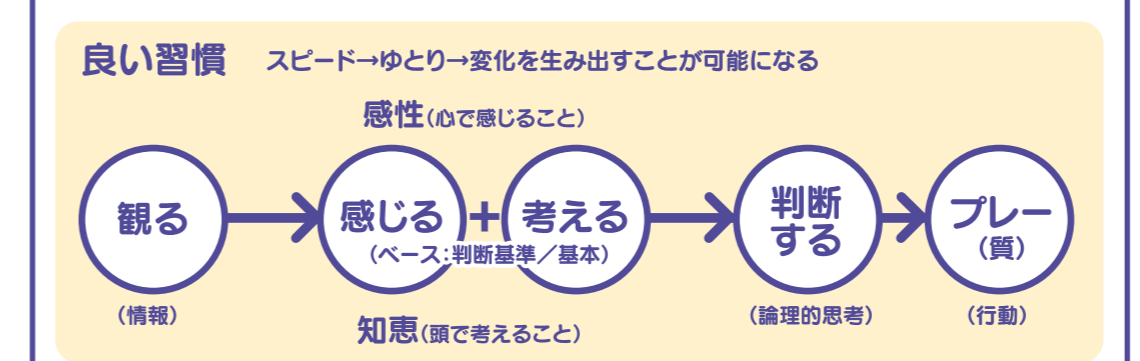
**自立した選手に必要な感性**

- 組織の中で自身の特徴を発揮できるゲーム感覚
- 相手や味方、スペースの変化に柔軟に対応する能力(感性)
- チャレンジする精神、自身をコントロールする力
- 仲間や相手を尊重する気持ち
- 感情の素直な表現(嬉しい、悲しい、有難い等)

単に技術が優れているだけでなく、ピッチの内/外を問わず、自己責任のもとで考えて言動をとることができるためには、選手自ら考えて、判断し、プレーする力を養わなくてはならない。一時的な結果を求めず、考えるためのベースとなる基礎や判断材料を習得させ、トライ&エラーを経験させながら成長させる必要があります。

**基本的なプレーの流れ**

①観て(情報) → ②考えて(感性) → ③判断して → ④プレー(行動する)



## 指導/指導者

「ベガルタ仙台の指導の判断基準は、PLAYER'S FIRSTの概念です。」～はじめに選手ありき～

何かを判断する際に、どうすることが子供(選手)にとって良いことなのか、大人の都合ではなく、子供の気持ちと彼らの将来を判断基準に考えます。それは子供を甘やかすといった次元の概念ではないことは言うまでもありません。

ベガルタ仙台は、枝葉の部分ではなく「基本となる幹から育てます。」(幹となる資質から育てる)

冒険心とチャレンジ精神...失敗を恐れない精神、自ら工夫し行動する精神  
 失敗したことを指摘するより、チャレンジしたことを評価します。

ナイス TRY!

「コーチは人間としての寛容さや多様さが必要です。」(考えさせること、待つこと)

どんな場面においても、こどもの冒険とチャレンジの機会を保障し、失敗を恐れない精神を学ばせることを優先したコーチングをします。指導者側から答えを先に示すのではなく、選手(子供)が自ら気づき(見つけ出し)、進むべき望ましい方向に向かって歩いていけるよう導いていく指導を心がけます。

「子供たち(選手)は夢中にさせてくれるコーチを必要としています。」(自発性、工夫を促すこと)

話すだけなら忘れるよ 夢中にさせてくれれば理解できる やって見せてくれれば思い出す

子供たちが目を輝かせて「なるほど!」と思うようなトレーニングと情報を受け取る子供たちの感性を高めていくことを心がけます。～人との関係を大切に、仲間と協力し、うれしいときには喜び、悲しいときには涙を流すといった、あたりまえの感情を素直に表現できる感性を養うこと～

「コミュニケーションの力、それは考える力を育てること」

自分の考えを整理し相手に伝える能力、相手の話を正しく聞き取る能力、すなわちコミュニケーションの力は論理的に物事を考える力です。そしてそれは精神的自立を促します。

ベガルタ仙台は、子供たちの可能性を最大限に引き出すために指導者の育成に取り組みます。

「学ぶことをやめたら、教えることをやめなくてはならない」

前フランス代表監督 ロジェ・ルメール

